

企画展

山形の植物

— 結城嘉美氏植物標本コレクションから —

期日 平成13年12月1日(土)～平成14年1月27日(日)



イワオウギと飯豊連峰 (結城嘉美氏撮影)

開催にあたって

結城嘉美氏は、村山農学校時代に植物学を学び、山形県の植物相（フロラ）を明らかにするために研究を続けられました。その間、牧野富太郎氏、中井猛之進氏、小泉源一氏など数多くの植物学者と交流を深め、新しい変種、雑種などを発見されました。また、山形県総合学術調査にも参加し、植物班幹事として県内のほとんどの地域を調査されました。そして、これらの成果を3回にもわたって植物誌としてまとめられました。

本展示は平成5年に、結城嘉美氏より寄贈された2,302種17,525余点の標本の中から、山形県を代表し、山形県の植物相を示すにふさわしい標本を選び出して展示するものです。また、氏の没後（平成9年）ご遺族より寄贈された、研究用品や植物学者との交流を示す書簡などもあわせて展示しています。

本展示を通して、結城嘉美氏が情熱を注いだ、山形県を彩る個性豊かな植物たちの魅力を伝えることができれば幸いです。

山形県立博物館

植物区系上山形県を特色づける植物

(1) 日本海要素の植物

山形県は、裏日本区あるいは日本海地区と呼ばれる地域に属し、しかもこれらのほぼ中央部に位置するために、その典型的な植物分布区域といえることができます。落葉広葉樹からなる冷温帯林が見られ、特に多雪地に適応した、比較的新しく分化したとみられる「日本海要素（裏日本要素）」が分布します。隣接する他区系の対応種からそれぞれ分化の程度に差はありますが、生態的に積雪に耐える特性をそなえています。



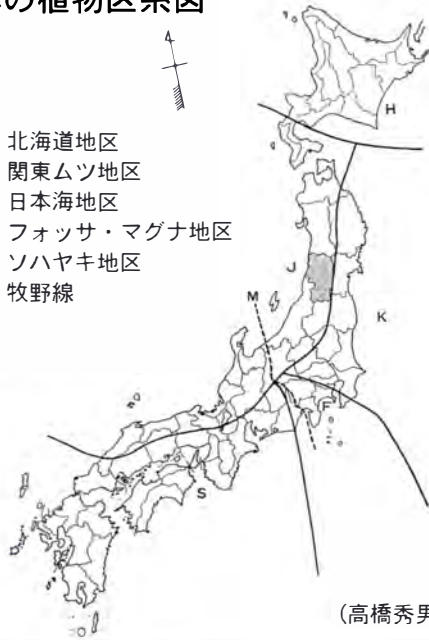
ユキツバキ



トガクシショウマ

日本の植物区系図

- H. 北海道地区
- K. 関東ムツ地区
- J. 日本海地区
- F. フォッサ・マグナ地区
- S. ソハヤキ地区
- M. 牧野線



(高橋秀男氏による)

(2) 太平洋要素の植物

宮城県とは隣り合っていますが、植物区系が異なります。そのため、県境をまたいだだけで宮城県側にはあるが山形県側にはない、またはその反対の植物が多く見られます。しかし、長い年月の間には、互いに越境分布することは当然で、関東ムツ地区の太平洋要素植物で山形県に分布するものも数多く見出されています。その多くは県境近くの山地にとどまり、内陸までの分布はまれです。中には日本海要素でありながら奥羽山脈を東へ越してはるかに仙台市近くまで分布するものがあり、その反対に太平洋要素でありながら山形県の内陸部にまで侵入しているものもあります。



ザイフリボク



ゴヨウツツジ

(3) 暖地系植物

山形県の日本海に面する庄内地方海岸地帯と唯一の離島である飛島は、対馬暖流の影響によって比較的温暖です。そのため、暖温帯のタブ林の発達と多くの暖地系植物の分布をゆるしています。ここでは、主に庄内地方を中心として分布する暖地系植物を紹介します。

興味ある植物

特殊な分布のしかたをするものや、主に山形県にだけ見られる植物、山形県が南限や北限になっている植物等を紹介します。



ツクシガヤ



チョウカイアザミ

山形の高山の固有種

- 鳥海山 チョウカイフスマ
 チョウカイアザミ
- 飯豊山 イイデリンドウ
 イイデトリカブト
- 蔵 王 ザオウアザミ

植物研究史上貴重な植物

結城氏採集の植物標本の中には山形県で発見され、命名された植物も含まれています。展示ではコレクションの中から、山形県を基準産地とする植物を紹介します。その中には、ユウキシダレ（ヤナギ科）*Salix × yuhkii* Kimura や オクノハマイボタ（モクセイ科）*Ligustrum yuhkianum* Koidzumi のように和名や学名に結城氏の名前が入っているものもあります。

山形県を基準産地として発表された植物は、120種以上になりますが、鶴岡市母狩山を基準産地とするホカリヒゴクサは、今は現地では確認することができなくなっています。山形市の愛宕山を基準産地とするヤマスカシユリも個体数が減少しています。

このような基準産地の植物も大切な山形県の宝物であると考え、環境の保持や植物の保護についても関心を持っていくことが必要なのではないのでしょうか。



ユウキシダレ（標本）

引き継がれる研究



イイデトリカブト



ザオウアザミ

近年、ザオウアザミ（蔵王連峰固有種）、イイデトリカブト（飯豊連峰固有種）が新種として記載されました。（ザオウアザミについて、結城氏は文献をもとにして、ミネアザミだとしていたものの、確信は出来ないでいられたようです。）

新しい種が発表されるまでには、山形県内の植物研究者と植物分類学者との緊密な連絡が必要です。そのネットワークの基礎を作られたのも結城嘉美氏です。今も、結城氏が基盤を築かれた山形県の植物相の研究は続けられています。現在は、様々な植物について、DNA鑑定など新しい方法を用いて研究されています。

結城嘉美氏略歴

- 明治37年 3月 村山市に生まれる
- 昭和11年 12月 フロラ山形を主宰
- 昭和23年 4月 山形県立楯岡高等学校長
- 昭和24年 4月 山形県史跡名勝天然記念物調査員
- 昭和25年 11月 山形県教育功労者表彰
- 昭和32年 11月 山形県文化財専門委員
- 昭和34年 4月 山形市教育委員会教育長
- 7月 山形県総合学術調査員・森林審議会委員
- 昭和37年 11月 学制90周年記念教育功労者文部大臣表彰
- 昭和39年 11月 齋藤茂吉文化賞受賞
- 昭和46年 4月 山形県立博物館館長
- 昭和47年 7月 山形県自然環境保全審議会委員
- 昭和49年 11月 勲四等旭日小授章受章（教育功労）
- 12月 山形県国土利用計画審議会委員
- 昭和50年 4月 山形大学農学部講師（昭和56年まで）
- 昭和51年 5月 山形県文化財保護審議会副会長
- 昭和53年 11月 文部大臣教育行政功労者表彰
- 昭和56年 10月 環境庁長官より感謝状（自然保護行政）
- 昭和58年 1月 山形県村山市名誉市民
- 平成5年 3月 山形市特別功労者表彰
- 平成6年 11月 地域文化功労者文部大臣表彰
- 平成8年 12月 逝去（享年92歳）



<主な著書>

- 昭和9年 山形縣植物誌
- 昭和47年 山形県の植物誌
- 昭和49年 やまがた植物記
- 昭和52年 続やまがた植物記
- 昭和61年 随想やまがた植物記
- 平成4年 新版山形県の植物誌
- 平成6年 九十翁やまがた植物記
- その他、学術調査報告書多数。